

令和5年度の重点課題

- 新体カテストの総合評価のAB率43.3%、ED率30.0%である。（（AB－ED）率13.3%）
- 男子・女子ともに「握力」は、県平均値かつ全国平均値より低い傾向が見られる。
- 「握力」に加え、「50m走」、「立ち幅跳び」においても男子・女子ともに県平均値かつ全国平均値より低い傾向が見られる。
- テレビを見たりゲームをしたりするなど、室内で過ごすことが増加しており、運動やスポーツの機会が一層減少している。それに伴い、持久力の低下が見られる。
- 運動やスポーツに楽しさを見出しにくい児童がいる。（8.6%）

上記の課題を受けて具体的に
取り組んだ事項

- 握力向上に役立つ運動を紹介し、体育科の授業等で取り組んだ。
- 体育朝会で体育整備委員会を中心に全校遊び等を企画し、学校全体で体を動かす取組を進めた。また、「西っ子外遊びタイム」では、教員も一緒になって遊ぶことで、外で遊ぶ楽しさを味わわせた。
- 外遊びの道具を整備し、外遊びを奨励した。

令和6年度新体カテストの結果 県平均値（令和5年度）・全国平均値（令和4年度）との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	17.48	18.43	33.14	41.93	50.57	9.24	153.50	22.86	54.07	第5学年	15.83	19.18	39.88	40.94	38.41	9.46	148.24	11.82	56.24

県平均値かつ全国平均値未満

令和6年度新体カテストの結果 県平均値（令和6年度）・全国平均値（令和5年度）との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	17.48	18.43	33.14	41.93	50.57	9.24	153.50	22.86	54.07	第5学年	15.83	19.18	39.88	40.94	38.41	9.46	148.24	11.82	56.24

県平均値かつ全国平均値未満

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか

男子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い	女子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
第5学年	92.86	7.14	0.00	0.00	第5学年	70.59	29.41	0.00	0.00

学校独自の意識調査

令和5年度	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い	令和6年度	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
第1学年	74.6	18.4	4.6	2.4	第1学年	92	8	0	0
第2学年	86.9	10.3	2.8	0	第2学年	87.1	12.9	0	0
第3学年	65.5	20.3	5.7	8.5	第3学年	83.3	13.9	2.8	0
第4学年	50.2	42.1	0	7.7	第4学年	44.1	23.5	17.6	14.7
第5学年	48.1	36	15.9	0	第5学年	21.4	64.3	14.3	0
第6学年	85.8	10.4	3.8	0	第6学年	26.9	46.2	26.9	0
平均	91.4		8.6		平均	87.3		12.7	

重点課題

情意面での課題

- 運動やスポーツすることに肯定的な考えの児童が全体の87.3%である。（前年比4.1%↓）
- 運動やスポーツが「好き」と答える児童は学年が上がるにつれて減少傾向にある。

体力面での課題

- 男子
 - ・「上体起こし」、「長座体前屈」は、2年続けて県平均値・全国平均値よりも低い数値である。
- 女子
 - ・「ボール投げ」は、2年続けて県平均値・全国平均値よりも低い数値である。
- 全体
 - ・「長座体前屈」において、県平均値・全国平均値よりも低い学年が多い。

令和7年度の
重点目標値

- 全校児童で運動やスポーツが「好き」「やや好き」と答える児童の割合を90%にする。
- 「長座体前屈」、「ボール投げ」を男女とも県平均以上にする。

重点課題に対応した改善する取組内容及び方法

体育の授業で行う取組内容

- 体育整備委員が柔軟性を高める運動として、「海田西体操第一」を作成する。全校に呼びかけ、体育科の授業の最初に準備体操の一部として実施する。
- 楽しく運動に取り組むことができるよう、「体づくり運動」等を中心に、多様な動きにつながる運動や遊びについて研修を行い、授業で実施する。

体育の授業以外で行う取組内容

- 「体力アップ貯金カード」を長期休業中の宿題とし、児童が継続して運動に親しむことができるようにする。
- 休憩時間等を活用して児童が進んで投げる機会を設け、投げる動作を高める場を保障する。